

「夢見るヨセフ」

2014年05月13日

ヨセフは、端正な顔で姿も美しく、理知的で、また夢見る青年だと、私は想像します。父・ヤコブは4人の妻を持ちましたが、ラケルを最も愛しました。けれども、ラケルはなかなか子どもに恵まれませんでした。ようやく、ヨセフを産み、二人目のベニヤミンを授かります。この時、高齢出産と過労のため命を失います。ヤコブは愛妻・ラケルが産んだヨセフとベニヤミンを溺愛します。ヨセフは、両親と兄弟たちが私にひざまずく夢を見たと言いのけます。父の溺愛を受け、途方もないことを言うヨセフは、他の兄弟たちから恨みとやっかみを買ひ、エジプトに奴隷として売られます。言葉と文化の違うエジプトで辛苦をなめます。仕えた主人の妻から誘惑されますが、逆に誘惑したと言われて投獄され、更なる苦難を負うこととなります。その獄に、宮廷の役人が二人投獄されてきます。ヨセフは二人の見た夢解きをし、その通り、一人は死罪になり、一人は助けられます。エジプト王・ファラオが奇妙な夢を見た時、助けられた役人は夢解きをしたヨセフを思い出し、ファラオの前に呼び出します。ファラオの見た夢は、7年間豊作が続くが、後の7年は飢饉になる夢であると解き明かします。ヨセフは王に次ぐ地位を得、7年の豊作の間、穀物を備蓄します。続いてやってきた飢饉で、穀物を売り、莫大な富をもたらします。

ヨセフの故郷・カナンにも飢饉が襲い、10人の兄弟たちはヨセフの下に穀物を求めて来ます。ヨセフは兄たちだと分かりますが、兄たちは奴隷として売った弟とは知りません。ヨセフは実の弟・ベニヤミンの健在を確かめ、次に来る時は、彼を同行するように脅迫します。飢饉は続き、ベニヤミンを連れて行かざるを得ませんでした。ヨセフは穀物を与え、ベニヤミンの袋の中に、ヨセフの銀の杯をこっそり入れて帰します。追っ手をかけて、銀の杯を盗んだベニヤミンは死罪だと詰め寄ります。この時、四男・ユダが、ベニヤミンは年老いた父・ヤコブの命であると涙ながら、執り成しをします。執り成しを聞いたヨセフは、自分が弟・ヨセフであることを告白します。そして「わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合ったりする必要はありません。命を救うために、神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。(中略)神がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの残りの者を与え、あなたたちを生き永らえさせて、大いなる救いに至らせるためです。わたしをここへ遣わしたのは、あなたたちではなく、神です」と言います。ヨセフは、実の弟・ベニヤミンを愛している兄弟たちの悔い改めを確認して、赦したのです。そして、ヤコブ一族をエジプトに招き、父との劇的な再会を果たします。そして、厚い庇護の下に置きます。ヨセフが幼い時に見た夢は実現します。

ヨセフの体験に「神の救済史」を見るとというのが信仰者の理解です。人は否応なく苦難を重ねますが、その苦難は救いに与るための歴史であった。私のあの苦しみは、今の救いのために、神が備えたものであった。このように、自分の人生を受け止めることができたなら、どんなに幸いでしょうか。これを信じ望んで、今を耐える。ヨセフ物語は、そのように励ましてくれます。